

三三 知行收納米皆濟狀之儀御定

知行收納米皆濟狀、微妙院様御時より今以、何茂直判仕候間、向後も彌其御心得可被成候。他國有之面々は格別、其外は家來判形にて出し不申様、御組中可被仰觸候。恐惶謹言。

十一月晦日

前田 對馬

今枝 民部

奥村 河内

長九郎左衛門様

横山左衛門様

本多安房様

三四 知行米預申藏宿之儀御定

御家中諸給人知行米、御定藏宿之外預申間敷旨、最前申觸候得共、給人与百姓相對に候ば、何方にても其所々奉行人差圖次第、致縮預置候様、御組中可被仰觸候。恐惶謹言。

八月十六日

前田 對馬

今枝 民部
奥村 河内

在江戸

奥村 因幡

本多安房様

長九郎左衛門様

横山左衛門様

三五 七歳以下死去之節忌無之儀御定

人七歳迄之内死去仕候ものには、忌無之候間、末々之面々は無構御番等可勤候。但、御目通に相詰候面々は、三日程可致遠慮候。以上。

(寛文十二年
子七月十一日)

朱書。唯今は公儀服忌令之趣相守候事。

三六 七夕・八朔着衣之儀御定

七夕・八朔、向後白帷子可致着用旨、御寄合衆被仰渡候。以

上。

(延寶二年)
寅七月三日

七夕・八朔白帷子着用仕儀、向後無用之旨被仰出候事。

(貞享二年)
己丑七月廿九日

三七 縁組其他雜事觸

覺

一、組之面々縁組定候刻、金銀取嫁娶仕候事、并作事等仕遣候事。

一、跡目被仰付三ヶ年之間は、兄弟一所に有之、勝手を仕次作事仕候様最前被仰出候處、近年は親致死去追付作事仕候事。

一、不應分限作事、向後無用之事。

一、病人有之、十死一生之刻、未屋敷不上以前、其屋敷望候事。

一、離別之事。

右之通組頭中相改可申候。向後左様之儀有之、立御耳候ば、

急度曲事に可被仰付候條、能々吟味可仕旨、御年寄衆御申渡候。以上。

延寶二年十二月

三八 就職希望之無息其他之儀觸

覺

一、家中侍共せがれ、或弟或甥等、面々手前抱置候もの、與力之侍・新番之徒、又は射手・異風・書物役などに出度と望者は、頭々注置之、追年寄中迄可相達事。

一、名跡之息無之、跡目令斷絶、祖父母・父母又は伯父母・姉妹・妻女・娘等可頼方無之、可及飢寒者之儀は、其趣可言上事。

一、病氣に付上京、又は入湯願之節醫師添書、并病氣に付役儀難相勤趣頭迄相斷候時分、誓詞之儀可爲無用事。

一、組之輩せがれ・弟等不得内意、他國に遣候儀、彌以可爲停止事。

一、組中若令死去者有之時は、其趣早速可達聽事。
以上